

ハラスメント

稲宮 健一

現役の頃、FENを聞いていたら、harassmentという単語が聞こえた。意味が分からなかったので、留学経験のある人に聞いて、その背景が分かった。米軍には女性の兵士がいたり、他人種国家なので、色々な思い違いが起こりやすいので争いを防ぐために放送していたのだろう。

もう少し前、国内では無理を強いることに抵抗が少なかった時代であって、猛烈に働くことが美德と言われていた。二子ポー貝塚の大松監督のバレーボールの練習は、これでもか、これでもかと選手にボールを投げつけ、回転レシーブを会得させたかいがあって、金メダルに輝いた。今だったら、何々ハラと言われていたかもしれない。

今は猛烈だけでは評価されない。しかし、職場ではにこにこ顔だけで、仕事が進むとも思われない。何でもいやなことや難しいことを乗り越へ、初めて達成感が得られるものだ。そのため、ある程度の強制力を上司はつかうが、それをパワハラなどと言われてはかなわない。生きている限り、世の中に何々ハラがついて回る。

しかし、今回のジャーニー喜多川のセクハラは少し違う。彼は自分の性嗜好を若いタレントを目指す未成年に迫り、晴れ舞台をほめかし、興行界のドンとして、嗜好を満たしていた。犠牲になったタレントの心に取り返しにつかない禍根を残した。詳細は各週刊誌に取り上げられている通り。この事件で一番問題は、この記事がBBCにスッパ抜かれたという点だ。業界ではすでに知れた渡った事実が、彼がテレビなどのマスコミとの結びつきが強く国内のマスコミはこれを黙殺した。自分達の利害を優先して事実を報道しなかったことが明らかになった。ようやく弁解じみた報道がされた。こんなに日本の報道は自主性がなかったのだろうか。戦後は国内の報道機関は正確で自主性があると思っていただけだったが、今現在世界に偽情報があふれていて、何が正確な事実なのか判断苦しむとき、しっかりと謙虚になって信念のある報道を期待したい。